

### 抗酸菌

項目コード	検査項目	検査材料	容器	保存(安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	提出条件	備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名	
抗酸菌	0652 顕微鏡検査 (抗酸菌塗抹) 6A205-0000-061-717	一般細菌に準ずる	一般細菌に準ずる*1	冷蔵	2	61微生物	Ziehl-Neelsen法	一般細菌に準ずる。ただし、材料が血液の場合 EDTA-2Na 加の容器にてご提出ください。		結核 抗酸菌感染症	
	0654 抗酸菌分離培養 6B305-0000-061-746										週4~8
	0657 抗酸菌薬剤感受性 6C105-0000-080-781	培養コロニー			週4~8	380②微生物	1濃度比率法		培養で抗酸菌の発育が認められて実施薬剤名はP12参照 ※26		
	1363 抗酸菌核酸同定検査 (DDH) 6B619-0000-080-842	培養コロニー			7~14	410④微生物	マイクロプレートハイブリダイゼーション法	下記表参照	抗酸菌群18種類について同定 ※26		
	2339 結核菌群核酸検出検査 (結核菌DNA-PCR) 6B620-0000-061-842	喀痰・体腔液・胃液・尿・気管支肺胞洗浄液など	2	冷蔵	2~4	410④微生物	TaqMan-PCR法	一般細菌に準ずる。ただし、材料が血液の場合 EDTA-2Na 加の容器にてご提出ください。	結核菌群の検出死菌でも検出 ※26		結核
	40		2590 MAC核酸検出検査 (マイコバクテリウム・アビウム・イントラセルラー) (MACDNA-PCR) 6B621-0000-061-842								2

- ① 抗酸菌分離培養検査は、検体の採取部位が異なる場合であっても、同時に又は一連として検体を採取した場合は、1回のみ所定点数を算定する。  
抗酸菌分離培養検査は、結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。
- ② 抗酸菌薬剤感受性検査は、直接法、間接法等の方法及び培地数にかかわらず、感受性検査を行った薬剤が4種類以上の場合に限り算定する。混合薬剤耐性検査においても、使われた薬剤が4種類以上の場合に限り算定する。
- ③ マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー (MAC) 核酸検出は、他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみに算定できる。区分番号「D021」抗酸菌同定と併せて実施された場合にあつては、主なもののみ算定する。
- ④ 結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。
- \* 1 材料が血液の場合、容器13 (EDTA-2Na入り) での提出をお願いします。カルチャーボトルは不可。

### 抗酸菌同定 (DDH) で同定が可能な18菌種抗酸菌名

○ : 同定可能

菌種名		読み	非結核性抗酸菌のヒトに対する起病性	DDH法	PCR法
結核菌群	<i>M.tuberculosis complex</i>	ツベルクローシスコンプレックス			
	( <i>M.tuberculosis</i> )	ツベルクローシス			
	( <i>M.bovis</i> )	ボービス		○	○
	( <i>M.africanum</i> )	アフリカーナム			
	( <i>M.microti</i> )	ミクロットィ			
非結核性抗酸菌	<i>M.avium</i>	アビウム	一般的に病原性あり (検出頻度 約70%)	○	○
	<i>M.intracellulare</i>	イントラセルラー		○	○
	<i>M.kansasii</i>	キャンサシー	一般的に病原性あり (検出頻度 約20%)	○	
	<i>M.marinum</i>	マリナム		○	
	<i>M.xenopi</i>	ゼノピー		○	
	<i>M.fortuitum</i>	フォーチュイタム		○	
	<i>M.abscessus</i>	アブセッサス	一般的に病原性あり	○	
	<i>M.chelonae</i>	チェロネ		○	
	<i>M.scrofulaceum</i>	スクロフラセウム		○	
	<i>M.gordonae</i>	ゴルドネ		○	
	<i>M.szulgai</i>	シュルガイ		○	
	<i>M.simiae</i>	シミエ		○	
	<i>M.nonchromogenicum</i>	ノンクロモジェニカム	まれに病原性あり	○	
<i>M.terrae</i>	テラエ		○		
<i>M.peregrinum</i>	ペレグリナム		○		
<i>M.gastri</i>	ガストライ		○		
<i>M.triviale</i>	トレビアーレ	病原性なし	○		

